



日出町 南畑  
高橋 利博  
御夫婦

私も「さんわ」で  
建てました

日出店

私どものお墓は、家から車で5分ほど離れた場所にあります。約40年前に建立したものです。しかし、私も88歳になり足も悪くなり、お参りも清掃も遠のく状況になりました。3年ほど前から、自宅近くに移転の計画を立てていました。そこで、以前営業に来ていたお店を訪ねていくと店じまいをされていて、「さんわ」とさんと御縁ができた次第です。8月の末には新墓が出来上がり、納骨も無事終わりました。現場の打ち合わせ、魂抜き、魂入れの説明、立ち合いをしてくださり、すべてお任せしました。仕上がり夫婦で大変満足しております。まさか、1代で2回もお墓を建てるとは思いもしていませんでした。今では、笑い話です。猛暑の中、営業の小城さん、



行者山観音堂  
先月(29年8月)号で紹介させて頂いた観音菩薩像の直ぐお隣に今度はお地藏様が建立されました。奥様が亡くなられて観音菩薩像を建立後、その17日後にご主人が後を追うように亡くなられました。別々の病院に入っていて直ぐには亡くなる事はないような状態

森町店

職人さんには骨を折っていただき、大変感謝申し上げます。

であつたということですが、不思議ですね・・・。先月ご紹介した通り子供が無く、あとの供養をするものがないというので、お隣にお地藏さまを建立、下の台をくりぬいた中に分骨したお骨を納めました。夫婦隣りどうして寂しくないだろうという思いから・・・。南無阿弥陀仏、



第一霊場、仁王像に大きな木などが土砂崩れで倒れかかっている。

お経もあげています。こんな先生がいるというのが、不思議です。自分に得にならないことは出きるだけすまい、これは俺がした、私がした、私が・・・わたしが・・・ばかりの世の中に・・・。今度の台風で霊場がかなり被害を受けています。が先生は仏様(仏像)は少しも損傷したものはないといっこうに動じていません。涼しいお顔でした。

お釈迦さまの足あと  
(ブッダの生涯)

お釈迦さま  
(ゴータマ・ブッダ)

仏教は、二千四、五百年の長い歴史のなかでさまざまな民族を介して広い地域に拡がり、さまざまな流れを生み出しつつ発展し、受け継がれてきました。しかし、その根本をたどればお釈迦さまに帰着します。仏教の雄大な流れはお釈迦さま(釈迦牟尼仏)しやくかむにぶつ、釈迦如来しやくかむにぶつ、釈尊しやくそん、あるいは、近頃はゴータマ・ブッダという言い方もします)という一個の歴史上の人物に始まるのです。お釈迦さまはどのような人だったのか、何に苦悩され、何を明らかにされたのか。こういったことを知ることが、仏教という宗教の根っこを知ることにつながるのです。

お釈迦さまの生涯と  
インド仏教遺跡

しかしお釈迦さまが本当に歴史上に生きておられたのであるなら、いったい、どんな顔で、どんな名前前で、どこにどのように住んでおられたのでしょうか。残念ながらお釈迦さまは二千数百年も前に生きていた人ですから、その顔がどのようなものだったのかは知ることができません。しかしお釈迦さまの死後にまとめられた仏典(経典と戒律)にお釈迦さまの名前や生涯が記されており、またインドにはお釈迦さまにゆかりのある遺跡がいまなお残されています。私たちはこれらの原始仏典や仏教遺跡や遺跡からの出土品などから、お釈迦さまという一人の人間の生涯をある程度たどることができるようになります。これより、インド仏教遺跡のいくつかを巡りながら、お釈迦さまの生涯をかいま見てみることにしましょう。お釈迦さまの生涯について、六つのトピックにわけ、

あわせてそれぞれにゆかりの地名を記すことにします。  
誕生： ルンビニー  
成長と出家(29才)：  
カピラヴァストウ(候補地  
現在名ピプラーワー)  
さととり(35才)：  
ブッダガヤー(ブッダガヤ  
ともいう、現在地名ボードウ  
ガヤー)  
初めての説法(初転法輪)：  
サルナート(ただしサル  
ルナートは現在地名、漢訳  
という鹿野苑)  
伝道： シュラヴァステイ  
(舎衛城、現在地名サヘー  
ト・マヘート)ラージャゲ  
リハ(王舎城、現在地名ラー  
ジギル)  
入滅(80才)：  
クシーナガル(ただしくシー  
ナガルは現在地名、サンス  
クリット語ではクシナガリー

生育の地カピラヴァストウについては、ピプラーワーの他に、ネパール領土内に位置するティラウラ・コートが別の有力候補地として考えられています。これらのうち、特にルンビニー、ブッダガヤー、サルナート、クシーナガルの四つを四大仏跡といい、仏教徒にとって最も大切な聖地として世界各国から多くの巡礼を集め、にぎわっています。お釈迦さまの生涯にとつても、仏教にとつても重要な事件が起こった土地だからです。



1898年フランス人考古学者ペツペがネパール国境近くから「これはブッダ世尊の舍利を収める壺で、シヤカ族の人々と、その姉妹妻子たちのものである」とブラーフミー文字で書かれた石壺を発見した。釈尊の実在は19世紀末までは疑問視されることもあったが、この発見により実在は確定することになった

高さ15cm  
四大聖地を写真を多くいれながら掲載します。旅行する気分で行んでください。